

令和6年5月8日

令和5年度「ICT・AI・データサイエンス教育プログラム」自己点検・評価結果

湘南工科大学 ICT・AI・データサイエンス教育研究推進センター

ICT・AI・データサイエンス教育プログラム（リテラシーレベル）について

本プログラムは、日本政府が提唱する超スマート社会「Society5.0」の実現、また、不足するデジタル人材育成のため、情報通信技術(ICT)を基礎に持ちAI・データサイエンスを活用できる人材を育成することを目的として開設された。全学部が開講に開講されている「データサイエンス入門1」（2単位）を「リテラシーレベル」の修了要件としている（「データサイエンス入門1」で取り扱う内容は文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」におけるモデルカリキュラム（リテラシーレベル）の内容に準拠している）。

自己点検・評価

プログラムの履修・修得状況

本プログラムは令和5年度以降に本学に在籍する学生を対象にしており、令和5年度の「データサイエンス入門1」の履修者人数／学生数、履修率、修了者数は以下の通りである：

- 情報学部（319名／319名、履修率：100%、修了者数：281名）
- 工学部（15名／1899名、履修率：0.8%、修了者数：14名）
- 合計（334名／2218名、履修率：14.6%、修了者数：295名）

学修成果・学生アンケートを通じた学生の内容の理解度の評価

全学で実施している授業評価アンケートを通じて、学生の内容の理解度を把握している。アンケートの設問うち、主要な項目に関しては、7割～8割程度の評価が得られている。

- 授業の内容は授業ガイダンス等で事前に説明され理解したものと合っていますか：8.26点／10点
- 学生の主体的な学びや授業への積極的な参加を促す工夫や雰囲気作りがなされていますか：7.11点／10点
- この授業の到達目標となっている知識や技能を、しつかり学べる内容になっていますか：7.85点／10点
- この授業を受けてよかったと感じていますか：7.48点／10点

また、本科目を通じて履修者の1/3以上が以下の能力が身についたと回答している（回答者数244名）：

- 授業であらたに身についたり、レベルアップしたりしたとを感じる能力は何ですか？
 - 必要な情報を収集する能力：127名
 - 学んだ知識や技能を役立てる能力：115名
 - 科目に関わる知識や技能：135名

以上のことから、本科目を通じてAI・データサイエンスの重要性が十分に認識され、基礎的な知識が修得できていると評価できる。

学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度

全学で実施している授業評価アンケートには後輩など他の学生への推奨度を直接的に問う設問はない。しかし、本教育プログラムを構成する科目「データサイエンス入門1」の授業評価アンケートにおける「この授業を受けてよかったと感じていますか」の設問に対し、7割程度の点数で評価されていることから、概ね他の学生へ推奨できる内容であったと推測される。なお、今後はICT・AI・データサイエンス教育研究センターにおいて独自にアンケートを実施し、他の学生への推奨度を調査する予定である。

全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況

本教育プログラムを構成する科目「データサイエンス入門1」は令和5年度より開講された教学支援システムや自動採点システムを活用したオンデマンド授業形式であり、本学に在籍する全学生が受講可能なシステムをすでに構築している。本学は情報学部（令和5年度に新設）および工学部の2学部からなる大学であるが、情報学部においては「データサイエンス入門1」を必修科目としているため、情報学部における履修率は100%となっている。令和6年度入学の情報学部一年生全員が本科目を履修することを考慮すると、令和6年度時点での全学の履修率はおよそ30%になる見込みである。一方、工学部における履修率は0.8%にとどまっており、工学部における段階的な履修者数の向上が今後の課題である。この課題の解決のために、各学部・学年のガイダンスにおいて本プログラムを周知することにより、学生に対する認知度を高め、履修者数の向上を目指す。また本教育プログラムを進める中心的な役割を担う「ICT・AI・データサイエンス教育研究推進センター」には工学部の教員が多数参画しているため、情報学部および工学部の教員が研究・教育両面において協力し、AIやデータサイエンスの顕在的・潜在的価値を発見および周知することで、工学部における履修者数の向上を図る。